

市主催講座〈なごや学〉尾張徳川家の殿様②

～尾張徳川家の相続と歴代の事績～

なごや学「尾張徳川家の殿様」5回シリーズの講座の第2回を8月25日（木）に行いました。名古屋城調査研究センター主任 原史彦氏に4代吉通から9代宗陸までのお話をさせていただきました。



4代吉通は、ときの将軍 家宣に信頼されており、非常に高く評価されていました。一方、朝日文左衛門の書いた日記「鸚鵡籠中記」には芳しくない風評が書かれています。

さて、25歳で亡くなった吉通の本当の姿は…？

5代五郎太が継ぎますが3歳で他界し、吉通の弟の継友が殿様になります。このころ、将軍家は紀伊藩から吉宗を迎えます。

7代宗春は、「温故政要」を著し意欲的に政治に取り組みますが、赤字財政が膨らみ、尾張家重臣により蟄居させられます。その後、8代宗勝9代宗陸は財再改革に励みます。



原氏の最新研究も交えて、この時代に生きた人々の姿が生き生きと思い浮かぶようなお話しぶりでした。下賜された刀剣のランクによって人物の評価が分かるのも面白いことでした。

受講者の皆様も2時間のお話を堪能していらっしゃいました。